

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：東川 直正

事業名 地域高規格道路 <small>おごおりほぎ</small> 小郡萩道路 一般国道490号 <small>えどろほぎ</small> 絵堂萩道路	事業区分	一般国道	事業主体	山口県
起終点 自：山口県美祢市美東町絵堂 至：山口県萩市椿				延長 15.0km
事業概要 一般国道490号絵堂萩道路は、県央の交通拠点である山口市小郡と「秋吉台」等の自然環境や、「萩城下町」等の歴史・文化遺産に恵まれた美祢・萩地域を結ぶ地域高規格道路小郡萩道路の一部を構成する延長約15kmの道路であり、当該事業は、広域観光ネットワークの形成、県央部と山陰地域との交流促進、広域交流拠点との連絡強化、安全で円滑な交通の確保を図ることを目的としている。				
H26年度事業化		都市計画決定なし		H28年度用地着手
H28年度工事着手				
全体事業費		約300億円	事業進捗率	22%
計画交通量		約10,400～13,300台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 210/274 億円 事業費：186/250 億円 維持管理費：24/24 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 353/353 億円 走行時間短縮便益：293/293 億円 走行費用減少便益：40/40 億円 交通事故減少便益：20/20 億円	基準年 平成30年
	(残事業)			
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.2～1.4(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.5～1.9(交通量±10%) 事業費：B/C=1.2～1.4(事業費±10%) 交通量：B/C=1.5～1.8(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.2～1.4(事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.6～1.8(事業期間±20%)				
事業の効果等 ・山陰地域と県央部や山陽地域間の移動距離が短縮されるとともに、定時性や安定した走行が確保されることから、以下の効果が期待できる。 ・観光客がより多くの観光地を訪れることが可能となる。 ・住民による地域間の交流促進が見込まれる。 ・物流の効率化により産業の活性化が期待できる。 ・搬送時間の短縮により、救命率の向上が期待できる。 ・H8道路防災総点検における要対策箇所を回避することにより、安全な交通が確保される。				
関係する地方公共団体等の意見 当該道路は、「萩市総合戦略」及び「第一次美祢市総合計画」に整備を促進する事業として位置付けられているとともに。萩・小郡間地域高規格道路整備促進期成同盟会等から早期整備の要望がある。地元住民は事業に協力的であり、事業推進にあたっての協力体制が整っている。				
事業評価監視委員会の意見 平成30年度山口県公共事業評価委員会（H31.2.14）において、審議の結果「事業継続」が妥当であると認められた。				
事業採択時より、再評価実施時までの周辺環境変化等 ・小郡ジャンクションが平成28年3月に供用開始 ・一般国道491号（山陰自動車道）俵山・豊田道路が平成28年度に新規事業化 ・一般国道191号（山陰自動車道）木与防災道路が平成29年度に新規事業化				
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率：約94%、事業進捗率：約22% 平成30年度は、本線改良工及び主要構造物である橋梁工を進めている。引き続き、本線改良工、橋梁工及びトンネル工等の進捗を図り、早期完成を目指す。				

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

残る用地取得を継続するとともに、早期開通を目指し、改良工事を推進していく。

施設の構造や工法の変更等

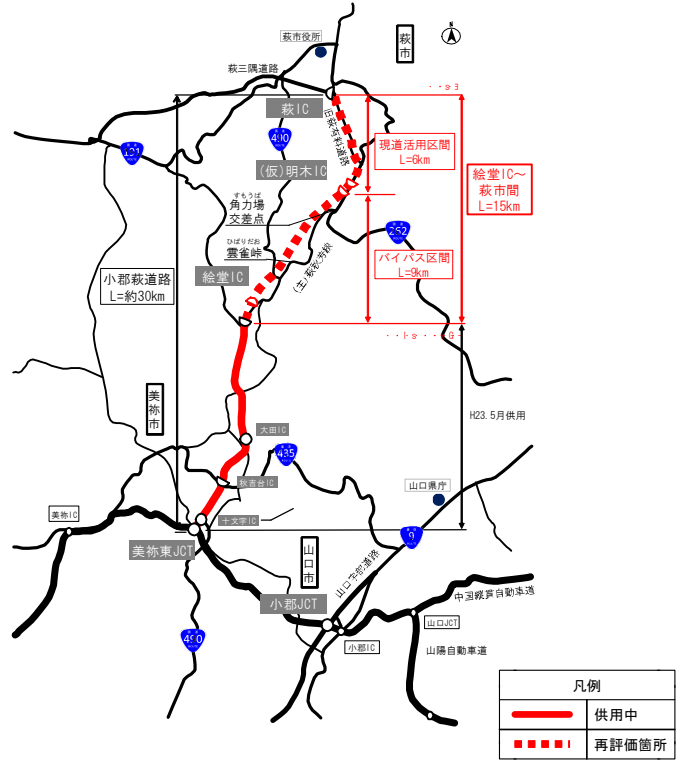
・今後も工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案し、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。